

アドバイザーは 農業経営者の 家庭教師であれ



細川 拓厚

HOSOKAWA Hiroatsu

細川拓厚税理士事務所
税理士
(北海道北斗市)

私は北海道十勝の開拓農家の長男として生まれました。そこは、どこまで行っても平坦な土地が続く畑地帯でした。遠くに日高山脈が青く連なっています。あの山の向こう側には何があるのだろう、一度行ってみたい、幼いながらそういう気持ちに駆られたものです。

就学前は毎日のように父母と一緒に畑に行きました。私にとって畑の土、まわりの草花・昆虫などが遊び相手でした。これが私にとって農業との出会いでした。

家は貧しく、毎日カボチャばかりを食べ、家族全員、体が黄色くなりました。中学生のときには毎年のように冷害が続きました。近所農家では、耐えられず離農していく者が続出し、クラスの同級生も一人、二人と転校して去っていきました。

ほそかわ ひろあつ

1950年北海道生まれ。日本政策金融公庫農林水産事業の前身である農林漁業金融公庫に24年勤務、その間一貫して農業関係融資を担当する。2000年、税理士資格を取得し北斗市で開業。北海道農業経営アドバイザー連絡協議会「かけはし」幹事。

中学・高校時代を通して、クラブ活動をすることは許されず、授業が終わるとまっすぐ帰宅し、農作業の手伝いをするというのが日課でした。つまり私はわが家の農業の重要な労働力とされていたのです。

経営なし、まずは自力で記帳できることが経営の第一歩であることも訴え続けています。

農業経営者から受けるさまざまな相談のなかで、私の根底にある農業の辛さ・苦しみにかかわるこ



©堀町 政明

農業とは、かくも辛く厳しいものであるとの想いが、私の根底にはあります。

税理士となり、農業経営アドバイザーとなってからは、農業経営者とお話をする機会が多くなりました。私が経営者に対し思うことは「経営者は成長してほしい、そして自分のことは自分でできるようになってほしい」ということです。また、そのためのアドバイザーの役割は彼らの家庭教師役である、と考えています。そして記帳なくして

とは共感できる部分があります。しかし、農業をお花畑の広がる楽園のように考えている人、あるいは、言うことは立派だが実績が伴わない人にお会いすると、大きなギャップを感じる時があります。

北海道の農業は負債整理の歴史でもあるとも言われます。多額の借金を負わざるを得なかった農業経営者に没落の道を歩ませてはならない。

そのためには、伴走するアドバイザーが適切なアドバイスをしなければなりません。その役割は大きい。**F**



農業経営アドバイザーは農業経営者のニーズに対応し、経営への総合的的確なアドバイスを実践する専門家です。2005年、農業経営の発展に寄与することを目的に日本公庫が資格制度を創設しました。本コーナーは、上級資格である上級農業経営アドバイザーが執筆しています。